

アソカ講話026

テーマ「ほめること」

人はほめて育てた方がいいと良く聞く。しかし、人は努力しなくても人のあらは見えるが、努力しないといいところは中々見えないものである。また、相手への期待値が高いほど、中々ほめるのが難しくなる。

ほめたいのに、なぜか、問題を指摘してしまうことがある。その原因として考えられるものは、相手を評価する基準が自分であったり、到達目標を基準にしてしまっていることである。なぜ、この人は、この子はできないのかという、その前提が自分是可以る、あるいはできたということにいたり、自分がこうあってほしいという理想像であることが多い。

できる自分、状態を基準にして、相手のできていない所を指摘するということになっていないかと振り返ってみよう。

人は知らず知らずのうちに、自分と比べてどうかの評価になりやすい。そのことから脱するためには、評価の基準は、1年前、あるいは昨日の相手の姿を基準にすることである。そうすれば必ず、成長した部分に目が行くことになる。ほめることは気づきである。わずかな成長にも気づける感性を磨くことでもある。